

セグロセキレイ

Motacilla grandis

セキレイ科・留鳥



セグロセキレイ

名前の由来

体の上面が黒いセキレイだから、こう呼ぶ。セキレイは鶺鴒と書き、背は背筋、令は冷たく澄んでいること。背筋が清冷な鳥という意味である。漢字名：背黒鶺鴒

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種)
草花

(外来種)
草花

哺乳類

(水辺)
鳥類

(葦原・樹林)
鳥類
ワシ・タカ

特定種

該当なし

形態的特徴

全長（くちばしの先から尾の先まで）21cm。背中が黒い、白黒のセキレイ類。

頭部、顔から胸、それに体の上の面が黒く、腹は白色。眉斑（目の上の眉のような模様）がくっきりと白く、左右がつながっている。のどのところも白い。

翼も白く、飛ぶと背中黒とのコントラストが目立つ。

声：「ジュジュ、ジュジュ」「ジジジ」と濁った声で鳴く。飛びながらも鳴く。

繁殖期には「ツイツイツイー、チーチー、ジョイジョイ」などと澄んだ声に少し濁った声を交えながら鳴く。

飛び方や歩き方：飛ぶときには、羽ばたきと翼を閉じての滑空とを繰り返す、波のような飛行曲線を描く。

両足を交互に出して素早く歩き、とまると尾を上下に振る。

類似種と見分け方：ハクセキレイ。

ハクセキレイは頭（顔）が白っぽくくちばしから目を通る黒い線がある。また「チュチュン、チュチュン」と鳴く。



セグロセキレイ。顔は黒く白い線がある



ハクセキレイ。顔は白く黒い線がある

生息環境・分布

低地、低山帯、時には亜高山帯の河川とその周辺に生息する。十勝では河川の中・下流部で1年中見られる留鳥。

分布：基本的に日本列島のみに分布する日本固有種。ただし、ウスリー川（ロシア沿海地方、中国国境）南部と朝鮮半島での繁殖記録がある。

日本では、北海道、本州、四国、九州で留鳥として繁殖し、

対馬、伊豆諸島、奄美大島には冬鳥として現れる。

北海道では夏鳥。一部留鳥で繁殖する。河川中・下流部の河原に生息する。河川上流部でもダム湖や河原など開けた環境があると生息する。冬にも少数が残留する。

十勝では留鳥で繁殖する。河川の中・下流部に生息する。

食性・他生物との関わり

トビケラ、カワゲラ、カゲロウ、ハエ目の幼虫や成虫を主に食べる。

水辺の地上などを歩いて餌をついばむ。キセキレイほどで

はないが、飛んでいる虫を河原の石上から飛びついて空中で捕らえるフライングキャッチをしばしば行う。

猛禽類などに捕食される。

生活サイクル

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
十勝出現期												
					繁殖							

繁殖生態

繁殖期は3～7月で、一夫一妻。オスは冬の間からさえずり始め、なわばりを持ってオスに脅しのディスプレイ（誇示のための行動や動作）を行ったり、メスに求愛ディスプレイを行ったりする。（→興味深い話の項参照）

オスメスで巣作りの場所を探して回り、土手の窪み、河原の石や流木の下、建物の屋根の隙間などに枯草などで腕型の巣を作る。内装は獣毛・羽毛・綿クズなどを使うという。巣作りはメスが先行、オスはその間巣の近くで頻繁にさえずるという。

興味深い話

■繁殖期にはなわばりを持つ。行動圏は10～30haでその範囲に1～16haのソングエリア（よくさえずる場所を含む範囲）があり、なわばりにあたる。なわばりの境界での、オスどうしのディスプレイ（他個体に対する誇示行動）は、追いかけ、頭を上下させる、ジャンプする等の威嚇などがある。

■求愛行動は、メスが前傾姿勢で尾羽を上げるポーズをとるディスプレイで始まる。これに対してオスは尾羽を開き翼を下げる。冬は埒(ねぐら)に集まるが、日中は埒を離れ、川や水田などに出向き、オス単独かつがいで行動する。採餌のためのなわばりを持ち、境界では繁殖期と同様のディスプレイを行う。

■基本的には一夫一妻だが、一夫二妻の記録もあるという。

■セグロセキレイの社会は女性に厳しく、巣立ったヒナがある程度大きくなると、メスのヒナは先に親のなわばりから追い出され、オスのヒナのほうが長い間給餌される。なわばりをつくって守るのは主にオスであるため、オスを優先して育てることが自分の子孫を残すのに有利になるからではないかといわれている。

配慮事項

餌となる昆虫類が生息する水辺が必要。

4～6個の卵を産み、卵はオスメス交代で抱くが、夜間はメスのみが抱くという(篠田,1975)。12～13日でヒナがかえる。

ヒナは両親の世話を受け、13～15日くらいで巣立ち、その後約15日で独立する。

多くのつがいは2回目の繁殖をするという。

■十勝地方のアイヌ語では、セキレイ類を「オチュチリ」という。

■日本神話ではセキレイは国産みの神に性行為を教える鳥として出ており、またアイヌ語名の「オチュチリ」も「交尾する鳥」の意だという。

■セキレイの古名の稲負鳥(いなおうせどり)は刈り取った稲穂のゆれる様子がこの鳥の尾をふるのに似ていたからである。



セグロセキレイ

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種)
草花

(外来種)
草花

哺乳類

(水辺)
鳥類

(草原・樹林)
鳥類
ワシ・タカ

参考文献

「山溪カラー名鑑 日本の野鳥」高野伸二 編、浜口哲一・森岡照明・叶内拓哉・蒲谷鶴彦 著、山と溪谷社 1985 (1995 2版21刷)
「原色日本野鳥生態図鑑(陸鳥編)」中村雅彦・中村登流、保育社 1995
「北海道鳥類目録改訂2版」藤巻裕蔵、帯広畜産大学野生動物管理理学研究室 2000
「野鳥ブックスー2 フィールドガイド日本の野鳥」高野伸二・谷口高司・森岡照明・叶内拓哉、(財)日本野鳥の会 1982 (1994 増補版7刷)
「日本の野鳥590」真木広造・大西敏一、平凡社 2000
「鳥のおもしろ私生活」ピッキオ 編著、主婦と生活社 1997
「図説 日本鳥名由来事典」菅原浩・柿澤亮三 編著、柏書房 1993

「分類アイヌ語辞典」知里真志保、日本常民文化研究所 1962
「アイヌ語で自然かんさつ図鑑」帯広百年記念館編、内田祐一・池田亨嘉、帯広百年記念館友の会 2004

Nakamura, S. (1985) Clutch size and breeding success of the Japanese Wagtail *Motacilla grandis*, with a special reference to its habitat and mating system. J. Yamashina Inst. Ornith., 16 : 114-135.

Nakamura, S. (1982) Social structure of the Japanese Wagtail *Motacilla grandis*. J. Yamashina Inst. Ornith., 14 : 325-343.